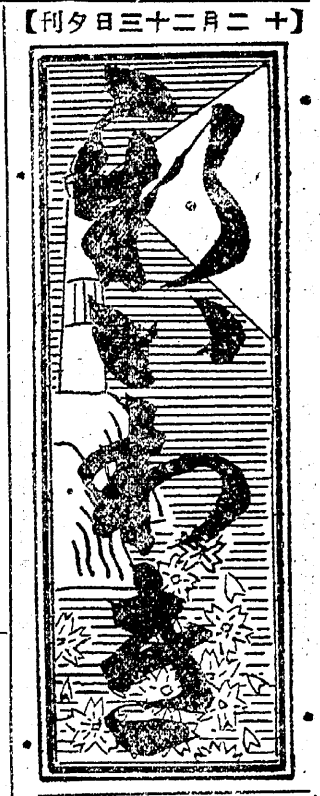
昭和五年三月三十一日 第三種郵便物認可
昭和五年十二月二十四日 新いわき (火曜日) 第二百二十九號 (一)

【十二月二十三日夕刊】



休日 日曜大祭日
一ケ月 廣告料 一行四〇錢
一部 稅共 廿五錢 場所指定 廿錢
二 十五錢
發行兼編輯人 平谷政喜
印刷人 平谷政喜
發行所 平南町廿一 福島縣新いはき新聞社

双南民政黨の勢力家 小松幹夫氏殺害さる

加害者は曾て同志であつた 元郵便局長で貸借關係から

立憲民政黨の評議員會代議員で双葉郡南部に政治經濟兩方面に大勢力をなす同郡龍田村大字井出小松幹夫氏(五五)は廿二日午後九時四十分頃自宅を

訪問し た村内字大谷の元郵便局長猪狩傳(四二)と酒宴中に於て傳の爲め砒ざすました出刀庖丁を以て背部から一突に輕動脈肋骨をいぐられ折柄酒肴の林檎をむいてゐた

小松氏 が手にせる庖丁を以て渡り合つたが重傷に堪えず間もなく絶命した犯人は現場に於て逮捕常夜自動車で富岡署に護送や檢事局から三笠檢事並に藤澤豫審判事急行

取調中 であるが小松方では目下大混雑を呈してゐる

被加害者の 兩關係 共に村役場に勤めた仲

小松氏を殺害した猪狩は曾て村役場に於て傳の爲め砒ざすました出刀庖丁を以て渡り合つたが重傷に堪えず間もなく絶命した犯人は現場に於て逮捕常夜自動車で富岡署に護送や檢事局から三笠檢事並に藤澤豫審判事急行

取調中 であるが小松方では目下大混雑を呈してゐる

被加害者の 遺族現況 氣の毒な犯人の遺り者

不慮の最後を遂げた小松氏方では遺産が豊で樣累に經濟的苦勞はないらしいが加害者猪狩方では老父母及び妻子數名の家族を遺してゐるので家長の

犯行を 悔む一方に於て向後をどうするかに惱み小松氏方では主人幹夫氏が村内に羽振をきかした關係から双葉郡農會長及び同村菩提寺基本金三千圓鎭守社關係の五千圓

漁業組 合の三千圓その他公金預りの經緯が充分でなく此間の處置に當惑してゐる模樣であるが政黨的には小松氏を失ふ同地方向後の民政派に相當の打撃であらうと見るものが多い

平小學校へ 寄附 基本金と第三小學校へ

二十二日平町會に於て採納された寄附者は小學校基本金の中へ十圓を寄附し新川町二二葉葉かね外同町第三小學校に對する植木及び教材運動器具その他で寄附者の氏名は左記の如くである

△鎌田賀澤宏介、高田清一郎、猪狩博、小野なは渡邊演吉、荒川光夫、根本毅一、賀澤捨吉、鹿島要助、鷲巣一、新井きの

日下部初太郎、武氏榮佑鈴木留吉、松永精、鈴木定一、高木保次郎、佐藤幸吉、新井淺右衛門、金成國雄、菅野勘助、菅野伊重、鯨岡金太郎、平澤政衛、岡田千藏、小野寅之助、五十嵐金治、鈴木政一、東一納稅組合、新川町木村寅次郎、野木源吉、吉田喬二、馬目末藏風間福榮、丹野金藏、國井一美、江尻喜作、野澤欽一郎、川崎忠策、石川幸太郎。林貞助、新川町興新會、田中宜治、玉木爽次郎。風間福榮、佐藤保吉、松崎秀治、桑谷泰智、諸橋正次、國井勝家鈴木市三、小林彦司、吉野勇、諸橋釜松、羽山周造、新川町青年分團、田町加藤正保、武田國四郎下川原木村さだ、彌宜町佐藤英次郎、松本みわ、平卓球協會長山田勇太郎四丁目關内榮助、立町廣瀨甲作、月見町林又左衛門、彌宜町增子福三

老母殺し 無期懲役 判決言渡は來る廿八日

石城郡錦村の雜貨商助川あき(婦屬)殺害犯人助川春雄假名(七)の第三回公判は二十二日午後一時平支公廷に於て開かれ島裁判長係り武田檢事會永野、眞本兩辯護士出廷の上武田檢事から犯行當夜あき方に忍び込んだ土臺下の穴及び附近に發せる太便並に家庭内の惨情を知悉する點に於て春雄の兇行に相違なく無期懲役を主張とする論告あるに對し前記辯護士から無罪論あり て午後八時閉廷した判決言渡は來二十七日午前九時

明年から實施 第廿七區 北目町の獨立

既報平町の胡摩澤方部第十五區は北目町方面の發展に伴ひ分離獨立區を設くることに地元の折合がついてゐたが來る一月一日から愈よ實施することになつた之で同町は從來の廿六區に一區殖えた譯で新行政區左記を二十七區とし尚ほ十五區長に赤塚勇吉氏を新選した

▲新行政區北目町外杉平六八町、櫻町の一部

福島炭礦斤先堀の 經營者と勞働者紛爭

作業難からの收入減で 兩者の妥協は餘程困難

石城郡赤井村の福島炭礦が同礦經營の第一坑を本月初め坂田順治氏に斤先採堀の契約をなし同坑從業者八十名を其まゝ前記坂田氏に讓られたが其後の

勞働賃 銀が從來よりの約二十錢を減ずる一圓前後に止まり之れでは到底暮り切れぬと云ふので去二十日續橋一郎氏外數名を代表に上げ鑛業所長菊地德太郎氏に交渉したが

坂田氏 に任せた關係で勞働者側の滿足される解答に接しない爲め目下紛糾中であるが斤先契約なるものは借鑛區と殆んど類似のもので其れを菊地所長に迫つても素より

要求を 容れられるでなく同鑛が坂田氏の採堀に任せたものは坑内の諸設備その他炭層等に統一作業が困難の爲で失れだけ坂田氏の經營に業でない事實があり勞銀の如きも

値下げ をしたものでなく坑夫其他の一般作業が容易でない爲の減收であるらしいので兩者の妥協は餘程の困難と見られてゐる不景氣の折柄爭議は勞働者にとつても

利益で なく目下のところ大して惡化の模樣もないが平署に於ては萬一のため監視中である

好間村生れ 鷄盜常習 本年二月以來四十羽を盜む

石城郡好間村の鷄窃盜常習者猪狩勝義(二〇)が此程平町紺屋町通りに於て鷄一羽を抱へて逃走中平署員に逮捕されたことは既報の如く同署の取調べによつて去る二月中旬以來村内外十數戸から約二十回に亘り鷄四十羽價五十圓を窃取せる旨自白した

他人の牛を 我が物顔 賣却せんとして たが發覺する

石城郡三坂村の湯白柳内義信(三四)は本搬運材の爲め村内齊藤三次郎から借受けた牛二頭を自己のものゝ如く裝ひ他に賣却せんとする所を駐在巡査に發覺檢擧されて平署の取調中である

教育部會の 冬季講習 來二十五日から平第一校で

石城郡教育部會では來る二十五日から三日間平第一小學校に於て冬季講習會を開催の筈であるが講師は東京女高師訓導岩下吉衛氏の由

平の人事

▲出生

平町字新川町二一 田中武雄長女花子十二月十日午後七時四十分
平町字南町三二 加藤一三三女光子十二月八日午前四時
平町字鎌田町六五 鈴木定一長男和夫 一月十六日午後六時
平町字四丁目二五 鈴木英一長男雄一十月廿五日
平町字道匠小路二二 富田由男二男 幸二十二月六日午前五時
平町字新川町三二 高野仁平三女隆子十二月十五日午前三時
平町字田町三八 鈴原德造長女藤子十二月十五日午前七時四十分

▼死亡

平町字南町六六 岸澤廣造(五七) 十二月十八日
平町字北目町一〇 鈴木喜代(二ツ) 十二月十七日午後三時
平町字大舘三二 渡邊浩一(一九) 十二月廿日午後六時

行進曲 (四) 1930年

三月廿四日、帝都の復興成り復興祭舉行大正十二年九月の大震火災によつて帝都は燒土と化したがその復興豫算は後藤第一案によれば五十億萬後藤第二案によれば三十億萬圓だつたが、段々壓縮されて六億三千餘萬圓となり、それに東京横濱の負擔額一億九千餘萬圓の巨費と、六年有半の長年月を費して復興が完成された廿四五六の三日間盛大な復興祭を舉行した、が廿六日には省電百六十萬人市電百七十萬人の人出、この盛觀に恐れをなして鯰が太平洋の彼方に逃げ去つたので、こゝ二三百年は地震の心配無用無用

三月廿四日、印度政府は綿花關稅を現行一割一分より一割五分に引上の提案をなしたが、幾多の曲折を經て廿四日議會を通過した我が國の對印輸出綿布に對し致命的打撃である。舌と筆では尽つてこの世一存せしも優れたる美辭麗句を並べ盡して平和を高唱し乍らシンガポールの軍港を築造し綿布關稅を引きあげる、之がジュントルマンの眞相か

畜力の利用増進に就て（二）

殊に馬や牛の力を利用する作業即ち畜力利用と云ふことに就ては、お互もつとく今日より其の範圍の擴張、方法の改良と云ふ點に付て研究せねばならぬと思ふのである

けれども之はまたなかなか容易ならぬ問題で當路の人や技術員などばかりがどんなにヤキモキした所が肝心の馬を使用する當業者その人が熱心に努力せられるのでなければ決して効果は擧がらぬものである、

何と云つても此の畜力利用の普及發達と云ふ事は當業者の自覺による研究と努力に俟たねばならぬ問題であるのである

我國の農業は行詰たらうか

世間の言葉を聞くと往々にして我が國の農業は行詰つた、畜産と云ふ仕事も行ゝまつたと云ふが、果して我が國の農業がそして畜産が眞に行詰つたであらうか一体行詰つたと云ふことはどう云ふ意味なのであらうか

例へば「もぐら」が地中に大きな岩石に行當りどうしても前進の出來ぬ樣な狀態になつたと同樣な意味なのであらうか、又は爲すべき總ての仕事を爲し盡して最早や何物もなくなつたと云ふ意味なのであらうか何れにしても此の農業が成は畜産が行き詰つたと云ふことは決して無條件に肯定することの出來ない言葉である事を考へざるを得ないものである

ガソリン
モビール油
日本石油株式會社
特約販賣
油問屋
關内商店
磐城平町 電話農一六六四〇
支店 郡山市驛前大通 電話農三二八
支店 茨城縣勝本驛前 電話農平潟七三
出張所 油槽所 平町四丁目 郵便局前

驚異的の効果を有する婦人藥
座藥 美神丸
内服藥 美神湯
婦人病に惱む人々に一度の實驗を勸む
平町代理店 平町五丁目角
山野邊藥局

既製部
オーバー 五圓から卅圓まで
二重廻し 七圓以上
模範裁縫
高島屋の洋服
平町驛前 電話三八六六番
注文部は各種破格の勉强

ンゲイア
幾多の治療劑中超然として偉効靈能を有するものは獨り本劑のみ
肺病、肋膜、肺炎カタル等
定價（二圓、四圓、六圓）
平町五丁目角
特約店 山野邊藥局

品質の位
味噌醤油
正宗
鑵詰鰹節
御進物には商品切手
合名會社 山崎
電話 釀造部 二七番 營業部 一〇番

ライト
寫眞館
平町搔槌小路
電話五三五番

和田鉄物店
良品廉賣は繁昌のモト
磐城平町五丁目 電話九九二、九九九

モトマル念記築改舗店
柴田書店謹賀福引大賣出し
新年ゑはがき、カレンダー、文字ハガキ
クリスマスカード、かるた、トランプ
各種例年の通り豐富に取揃へました……
一圓以上のお買上の方に抽籤券一枚呈上、一圓を增す毎に一枚宛增呈……
賞品
特等……ラケット又ハ額縁 一ヶ 三本
一等……萬年筆 一本 十本
二等……ひらかなかるた 一組 三十本
三等……布製又ハセルロイド製筆入 一ヶ 二百本
四等……極厚ノート 一冊 五百本
五等……本製筆入又は雜記帳一ヶ 殘全部
總數二千本……一本も空籤なし
期間 自十二月廿日 至十五日 廿八日
平町四丁目 電話二三四 五九七番

十二月廿一日より廿八日迄八日間
本年最終の大廉賣
お正月の準備品として御宮と花籠の廉賣
其他全商品を上げて超特別の勉强
提供品
三方桐簞笥 八圓より
茶簞笥 三圓より
長火鉢 五圓より
本箱 三円より
下駄箱 一圓より
机 二圓五十錢より
本 丸ほん家具店
平三丁目 電話三五九番

鶴印
特製
最中
大鶴屋菓子舗
磐城平町 電話七九番

御客樣本位の良品廉賣
冬物入荷
山澤
平田 伊 伊關呉服店